



南条っ子

学校だより 第68号

令和2年3月18日

9名の卒業生とともに、30名の在校生に向けて……

～校長式辞(全文)～

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日、3月18日(水)に南条小学校最後の卒業証書授与式が行われました。9名の卒業生が閉校を前に巣立ちました。本来ならば、在校生の30名や来賓の方々にも見送られ、卒業するはずでしたが、それが難しくなり、卒業生とその保護者、教職員での卒業証書授与式になりました。

そこで、卒業式中の卒業生の姿を見ることや、式辞を聞くことが叶わなかった在校生などに向けて、校長式辞の全文を学校便りでお読みいただければと思います。

令和元年度 卒業証書授与式 式辞

♪この坂道 のぼったら 南条小があります♪

9名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんを6年間見守り続けてくれた、南条小の坂道を通るのも、とうとう今日が最後の日となってしまいました。

思えば、20日前の2月28日。皆さんの最後の下校を見送ったあの日から、止まったままになっていた南条小学校の時計は、こうして皆さんと再会したことで、ようやく動きだし、3月18日を迎えることができました。

でも、いつも皆さんと一緒にいる在校生の姿が、今年の卒業式にはありません。また、皆さんをお祝いして下さる来賓の方々もいません。

そのような中で、119回目の、そして、南条小学校最後の卒業式を迎えることになりました。

先ほど、一人一人に渡した、世界にたった一枚しかない、卒業証書には、皆さんの名前が書かれています。この名前を、担任の先生からフルネームで呼ばれるのも今日が最後です。その名前には、ご家族の方のたくさんの願いや思いが込められていることと思います。その願いや思いを胸に、自分の名前に誇りをもって、生きて行ってほしいと思います。

また、名前の隣には、生年月日が書かれています。皆さんがこの世に生を受けた日です。自分の生まれた日が、どんな日だったのか、覚えている人はいないと思いますが、一つだけ言えることがあります。それは、皆さんだけが「泣き顔」で、皆さんを温かく見つめていた、ご家族の方全員が「笑顔」だったに違いないということです。皆さんが生まれた日から今日まで、ご家族の方からはたくさんの愛情を受け、皆さんを支えてくださった方々からは優しく見守られ、成長してきました。そして、今日ここに、南条小学校の最高学年として、立派に成長した姿を、堂々と見せてくれました。

2日間晴天に恵まれた修学旅行では、班別行動での積極的な学び、見学地やホテルでの模範生のようなマナーなど、すべてにおいて立



派な姿でした。一生懸命汗を流して練習した、ブロック陸上競技大会では、全員がベストを尽くしてがんばり、ブロック8校中でナンバーワンの成績を残すことができました。さらに、台風の影響で2週間延びてしまった運動会では、紅白がそれぞれ一つになり、「南条魂！いざ参らん！」を胸に最高のパフォーマンスを見せてくれました。今でも、これらの光景が昨日のここのように鮮明に思い出されます。他にも、兄弟学級の交流ではやさしく1年生に手を差し伸べたり、委員会やクラブ活動では下学年の児童をしっかりとリードしながら活躍したりと、数え切れないほど皆さんとの思い出がありました。



私が、南条小学校で毎日楽しく過ごすことができたのも、9人の卒業生の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、保護者の皆様、改めまして、お子様のご卒業、誠におめでとうございませう。

小学校での6年間は、多くの喜びとともに、苦勞や心配もあったのではないのでしょうか。今、お子様の成長した姿を見て、喜びもひとしおのことと思います。お子様は、南条小学校最後の卒業生として、立派に巣立っていくことになります。

これから、しばらくは多感な時期を迎え、楽しみも多い反面、保護者として悩むことも多いかと思ひます。ぜひ、お子様が夢に向かう姿を温かく見守りいただき、ご家庭において、すてきな「笑顔の花」を咲かせてください。

これまで、本校の教育活動に、多大なるご支援とご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

最後に、卒業していく皆さんに、この言葉を贈ります。

人に優しくしてください

人から優しくされます

人を大切にしてください

人から大切にされます

人をほめてください

人からほめられます

人のために何かをしてください

誰かがあなたのために何かをしてくれます

そして 人を愛してください

人から愛される人になれます

卒業生の皆さんが、中学校へ進んでも、いつまでも笑顔がかがやき、活躍し続けることを願っています。

この自然豊かで、緑に囲まれたすてきな南条小学校は、いつまでも「私たちの自慢の学校」です。そして、皆さんは、私が校長として迎える初めての卒業生であり、「私の自慢の卒業生」です。



♪卒業しても

この坂道は

ずっとここにあります♪